

次期計画に係るワークショップ・調査の報告について
 《 こまき 子育て Cafe 実施報告書 》

【意見聴取の目的】

子育てに関わる保護者等を対象としたワークショップ（こまき 子育て Cafe）を実施しました。市民目線での「子育てしやすいまちとは」どのようなまちなのか等について自由に語り合っていた形で意見聴取を行いました。

【意見聴取の方法】

「①小牧市で子育てをして“よかったところ”」「②他の市に“自慢したいこまきの子育て”」「③もっと“子育てしやすいまち こまき”に必要なこと」の3点について、ミニワールド・カフェ形式で意見をいただきました。

【意見聴取の実施概要】

主たる地域	日時	実施場所	参加者
中部地域対象	6月6日（木）	子育て世代包括支援センター	主に未就学児童をもつ保護者等 【12名】
西部地域対象	6月11日（火）	西部コミュニティセンター	主に未就学児童をもつ保護者等 【16名】
東部地域対象	6月12日（水）	大城児童館	主に未就学児童をもつ保護者等 【9名】
市内全域対象	6月30日（日）	小牧勤労センター	主に就学児童をもつ保護者等 【69名】

【いただいた主な意見：就学前保護者】

- 公園や児童館など、未就学児が行ける遊び場が多いことへの満足度は高い
- 遊具が更新されていなかったり、トイレ設備が不十分だったりする公園への不満がある
- 医療分野においては、中学生まで医療費が無料であることや予防接種の公費負担の対応が早いことについては満足度が高い
- 子ども向けの講座やイベントなど、ふれあいや学びの場が充実していることに一定の満足感がある

（各地域において特徴的な意見）

中部地域：一つの分野について突出した不満はないものの、整備が不十分な施設やサービスへの不満がある
 西部地域：公共交通機関の不便さや、道路の交通量の多さによる安全面の不安・不満がある
 東部地域：遊歩道の整備が充実しており、歩行空間への満足度は一定数あるものの、買い物をはじめとした住みよさへの不満がある

【いただいた主な意見：就学児童保護者】

- 児童館のイベントやジュニアセミナーなど、子どもの楽しみや好奇心に応える子育て支援事業に一定の満足感がある
- 小学生（特に高学年以上）の児童が遊べる屋内施設や遊具に物足りなさを感じている
- 登下校中の道路環境や防犯など、子どもの身の周りの安全について不安がある
- 小中学校の校舎内の設備が古いことや、学校以外での学習環境の少なさなど、教育環境の整備に不満がある

保育資源把握調査／地域資源把握調査実施報告書

【意見聴取の目的】

保育園・認定こども園・幼稚園の園長や市内で活躍する関係機関・団体を対象として、事業運営における課題や、子どもの様子、切れ目のない支援に向けて、関係機関・団体が担うべき役割やそのために必要な連携等を伺うため、意見聴取を行いました。

【意見聴取の方法】

- ①調査シートを配布し、意見を伺いました。
- ②関係機関の一部については、一部直接意見聴取を行いました。

【意見聴取の実施概要】

調査票の種類	調査対象	配布時期	回収枚数
保育資源把握調査	保育園	令和元年6月から7月	19
	認定こども園		2
	幼稚園		9
	小規模保育施設		15
	児童クラブ		13
地域資源把握調査	子育て関係団体・機関		5
	児童館		8

【いただいた主な意見：保育資源把握調査】

	①事業運営での課題	②子どもの様子	③保護者の不安（卒園後）	④充実したいこと	⑤連携したい団体《上位回答》	⑥今後の利用者数	⑦⑥の理由
保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士不足 ・園舎老朽化 ・保育ニーズの多様化（外国人・障がい児） 	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の交流が多い（年下の子には優しい） ・疲れやすく体力不足 ・トイレトレーニングが終了していないまま入園するなど、生活習慣面が気になる児童もいる ・生活リズムが夜型の子どもの数が増えたような気がする ・コミュニケーション面に不安のある子どもが増えてきた ・指示待ちの子どもが増えた ・アレルギー対応児、外国籍の子の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業、生活についていけるか ※学力、文字の読み書き ※通学の距離 ※友達づきあい ※給食 ※先生との関わり ※1クラスの人数が増える ・特別支援学級と通常の学級、どちらに通った方がいいか 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが伸び伸び遊べる環境づくり ・安全、防犯対策の見直し ・支援が必要な子どもに対する支援の充実 ・地域との連携強化 ・預かり保育の強化《幼稚園》 ・小学校との連携 ・専門家（安全・衛生）等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校（14件） ・他の保育園、幼稚園、認定こども園（11件） ・保健センター（11件） ・子どもの保護者（子育てサロン等）（2件） ・ボランティア、NPO団体等（2件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩やかに増加（2件） ・緩やかに減少（8件） ・あまり増減はみられない（9件） ・わからない（2件） ・その他（0件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・園の周りには大きな工場が新設されている【増える】 ・子どもの数が減っているから【減る】 ・人口密度の高い地域だから【維持】 ・母親の就労率が増え、保育園の需要が高まるが、子どもの数が減少するため【維持】
認定こども園	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の勤務環境の改善 ・利用時間の長期化に対する対応（工夫） 						
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・園児数の不足 ・幼稚園教諭の不足 ・施設類型が異なることによって支援体制が異なることによる不公平感 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する園に入れるかどうか ・新しい園に行って、環境に慣れてくれるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の質の向上（研修実施等） ・次の施設（園）との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校（5件） ・小牧市こども政策課等の行政（5件） ・子どもの保護者（子育てサロン等）（3件） ・他の保育園、幼稚園、認定こども園（3件） ・保健センター（3件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩やかに増加（0件） ・緩やかに減少（0件） ・あまり増減はみられない（4件） ・わからない（3件） ・その他（1件） ※無回答（1件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の利用で、就労している母親の一定のニーズは満たせる【維持】 ・無償化の関係で増加するかどうか、子どもの数の減少もあるので見通しがつきにくい【わからない】 ・無償化（利用料）になったらもっと長く預けてもらえる園を選ぶことが予測される【その他】 	
小規模保育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・園児数の安定（子どもの人数が少ない） ・保育士同士のコミュニケーション ・異年齢保育の難しさ 						
児童クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数に対して施設のバランスがあわない（狭い） ・人員の確保、指導員の待遇改善 ・特別な支援が必要な児童への対応 ・長期利用者（高学年）の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする子どもが増えてきた ・個人主義の子どもが増え、子ども同士の関わりが薄くなったように感じる →それに起因するトラブル（ケンカ等）が増えてきたように感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の充実（部屋の拡大、協力者の増強） ・長期休暇中の活動の充実 ・小学校との情報の共有 ・特別な支援が必要な児童の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校（11件） ・小牧市こども政策課等の行政（7件） ・ボランティア、NPO団体等（6件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・緩やかに増加（3件） ・緩やかに減少（4件） ・あまり増減はみられない（7件） ・わからない（1件） ・その他（0件） 	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児から預ける子どもも増え、共働きの人も多いから【増える】 ・同様の施設が増えている最中であり、少子化の歯止めバランスの見通しが立たないから【減る】 ・定員数に達していないため【減る】 ・0、1、2歳児は保育料無償化の対象になっていないため【維持】 	

【いただいた主な意見：地域資源把握調査】

	①運営面での課題	②子どもの様子	③保護者の様子	④子どもの成長を見守る・支えるために必要なこと	⑤連携を取りたい相手	⑥行政に望むこと等
子育て関係 団体・機関	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足 ・会場確保に苦勞している ・活動内容を周囲に理解してもらう機会があるとよい ・人数が多くなってしまい、同じ理念での活動が困難な時期があった ・参加者が減ってきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の方が増えた ・子どもが忙しいと感じる ・核家族や子どもの数が少ないことにより、「自立」が遅れ気味ではないかと感じる ・子ども自身の自己表現が抑えられがちな環境にある ・子どもの数が減ってきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱心に参加してもらえるのはありがたい。そこから担い手側になってもらいたい ・転出入者が多く、知り合いが少なく地域にとけこめず、孤独な親も多いと感じる ・家事力の低下を感じる ・周りからの目をすごく気にしている「ちゃんとしないと」という意識が強い ・核家族が増えており「子育ての先輩」と話をする機会も少なくなっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の支援 ・年齢を超えた地域のつながりの強化 ・経験のある人の参加 ・親が視野を広げられる機会の拡大 ・直接会って話せる、人と人とのつながりや場の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・市が中心となって団体の統合や連携の音頭を取ってほしい ・防災関係の団体との連携 ・保育園や幼稚園 ・認知症カフェなど、高齢者に関する機関、団体 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動参加者（担い手側）の育成・啓発 ・アレルギーのある子への情報提供の充実 ・子どもにあった児童館を見つけられるような児童館ツアーがあると良いのではないかと ・交通の便を改善してほしい ・外国人の子どもに対する支援の充実 ・民間の子育てに関する活動をもっと市でPRしてもらいたい ・活動の立ち上げに関して、地域の有力者（区長など）への理解が得られやすい仕組みづくり ・公園の整備（木陰が少ないので遊びに行けない）
児童館	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の親子の利用が増えているが、その一方で中高生の利用（居場所）が減ってきている ・自由来館のなかでの「子育て支援」の対応の検討 ・児童館の認知度の向上 ・外国の方への対応 ・双子育児をする母子へのサポート方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・塾や習い事の影響か、子どもが忙しそうに感じる ・新しいことに対するアンテナが高く、吸収、適応、使いこなすことに長けている ・自分で考えたり経験するより、人や物を頼って早く解決しようとする傾向が見られる ・喜怒哀楽の表情の変化が少なかったり、面倒な事はやらないと回避したりする傾向が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てにとっても熱心で、様々な情報収集をしたり、育児力が高い保護者が多く感じている ・情報が溢れすぎていて、自分で自分を複雑な状況に追いつめているような気がする ・自分の考えに自信が持てず不安を抱えている人が多い気がする ・受け身の姿勢（児童館におまかせの姿勢）でいる人が見られ、不安になるときがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域力の向上 ※地域の方が子どもの成長に関心をもてるような取組み ※挨拶、声掛け ※孤立しないような環境づくり ※世代を超えた交流の拡大 ・児童館に気軽に来館してもらえる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人同士との交流、連携 ・地域企業 ・行政、各教育機関、地域の代表者（区長など） ・保健センター、あさひ学園のように発達についてサポートしていただける機関 ・子どもに関わる事業をする市民団体 ・通訳をしてくれる機関 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関、組織のネットワーク化に対する支援 ※民生児童委員や保健連絡員など ・地域企業と児童館とのパイプ役になってほしい ・児童館、子ども条例の認知度の向上 ・常に情報を共有してほしい ・通訳 ・発達に心配のある親子についての研修や対応方法を学ぶ機会が欲しい